



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第3号

目次

- 法人化に向けてー
「大学法人化と三重大学の戦略」に関する説明会
- 和歌山大学との連携
- 三重大学教育学部と天津師範大学提携調印式
- 教養教育と社会貢献は概ね良好との評価ー
大学評価・学位授与機構
- 協働と連携の講演会
- アスト津4階アストホールで
附属図書館の講演
- 1台あたり約4万円でパソコン教室を
レベルアップ

お知らせ

- ・ 知の支援センターから
- ・ 広報・ネットワーク運営室から
- ・ お詫びと訂正
- ・ 投稿のお願い

法人化に向けてー「大学法人化と三重大学の戦略」に関する説明会

法人化を目前に控え、三重大学の中期目標中期計画の作成が急務となっております。本学では豊田長康学長補佐を中心に評価プロジェクトグループが全学的な立場から鋭意検討を重ねており、その案に関しましては大学改革会議での議論を経て各部局でも検討を頂いているところです。

これまでに個性豊かな大学づくり、国際競争力のある教育・研究展開、地域貢献・社会貢献の機能強化、経営責任の明確化と機動的・戦略的な大学運営などの観点から検討を進めておりますが、構成員一人一人に新しい三重大学創りを十分理解頂くと同時に、積極的に参加頂くことが必要と考えております。このよ



豊田学長補佐



教育学部
教授会での
説明会の様子
(4月9日)

うな観点から、豊田学長補佐が各学部の教授会で説明会を行っております。これまでに生物資源学部教授会(2月19日)を皮切りに、人文学部教授会(3月6日)、教育学部教授会(4月9日)で説明会を行い、5月14日には工学部教授会での説明会を予定しております。各学部で大変熱心な質疑応答があり、構成員の関心の高さを感じております。新しい三重大学創りのために、引き続き構成員各位からの積極的な提案を期待しております。尚、これまでに寄せられたご意見はホームページ(<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/dokuho/sonota/sonotaindex.html>)に掲載しております。



和歌山大学との連携

本学と和歌山大学との連携を推進するために連携協議準備会が設置されました。準備会は、両大学からそれぞれ5名のメンバーで構成され、両大学間の学生交流、教職員の相互交流、単位互換、学生ゼミ交流などの教育面での連携はもとより、共同研究を推進する研究面での連携や紀伊半島の振興と地域活性化を図るための地域貢献などについての包括的連携の可能性を探ることになっております。本準備会の協議を経て、今秋には「連携協議会」(仮称)の設置を目指しております。

なお、本学の準備会メンバーは、副学長2名と学長補佐3名です。

三重大学教育学部と天津師範大学提携調印式

三重大学教育学部と天津師範大学との「学術協力・交流に関する一般協定書」と「学生交流の実施に関する覚書」の提携調印式が、2003年3月15日天津師範大学で行われました(<http://www.edu.mie-u.ac.jp/topics/choin.htm>)。天津師範大学は21の学部、21の研究所を有し、教職員数は2113人、学生数は3万人余りです。日本語学科もあり約70人が日本語専攻生として勉強しています。又、300人が宿泊できる8階建の国際交流会館を有するなど国際交流を活発に推し進めており、学生交換を含め三重大学との多彩な交流に強い興味を示しています。中国語を学ぶ三重大生も多いことでもあり、今後両大学の交流が具体的に進展することが望まれます。

教養教育と社会貢献は概ね良好との評価－大学評価・学位授与機構

文部科学省の大学評価・学位授与機構は、3月26日に各国立大学が設定した目標に対する達成度について評価結果を公表しました (<http://www.niad.ac.jp/hyouka/index.htm>)。

今回の評価は「教養教育」に関する4項目および「社会との連携・協力」に関する3項目について行われました。表は、東海3県の国立大学を中心に、おおよその評価結果を取りまとめたものです。本学に対する評価は概ね良好で、特に「社会との連携・協力」については、地方自治体や非営利組織との共同研究の結果が県行政や教育・広報活動に活用されているなどとして、すべての項目で高い評価を受けることができました。ただし、「教養教育」については、まだ改善の余地がありそうです。より高い評価に向けて、今後も関係部局のたゆまぬ努力が望まれます。

表：各大学の設定した目的および目標の達成度評価

大学名	教養教育				社会との連携・協力		
	実施体制	教育課程の編成	教育方法	教育効果	協力の取り組み	実績と効果	改善と取り組み
三重大	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
名大	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆
名工大	☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆
愛教大	☆☆	☆☆	☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆
豊橋技科大	☆☆	☆☆☆	☆☆	☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆
岐阜大	☆☆☆	☆☆	☆☆	☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
阪大	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆

評価：☆☆☆☆十分に貢献している
 ☆☆☆おおむね貢献しているが、改善の余地もある
 ☆☆かなり貢献しているが、改善の必要がある
 ☆ある程度貢献しているが、改善の必要が相当ある
 ★貢献しておらず、大幅な改善の必要がある

協働と連携の講演会

三重県総合文化センター生涯学習センターで、みえ連合大学センター設立準備委員会と三重県の共催により「協働と連携の講演会」を3月15日に開催しました。県内各地から80名の方が出席し、熱心に講演を聴きました。

講演会では、林堅太郎氏（立命館大学産業社会学部教授）が「大学と地域の連携」、森島朋三氏（大学コンソーシアム京都事務局長）は「大学コンソーシアム京都の取組」に関してそれぞれ話されました。林氏は、現在氏が取り組んでいる、舞鶴における高等教育機関と地域との連携に関して講演しましたが、その構想の大きさと熱意には圧倒される思いで、我々の取組への大いなる刺激となりました。また、森島氏は大学コンソーシアム京都の立ち上げや事業について講演され、これも我々の今後の取組に大いに参考になる話でした。

連合大学センター設立準備委員会は毎月1回の会合を開いており、平成17年4月の本格稼働に向けて準備を進めています。平成15年には実験的な試みを開始したいと考えております。皆様方のご協力をお願いします。

アスト津4階アストホールで附属図書館の講演

樋田清砂さん（県史編纂専門委員）による講演会を4月13日に開催しました。「津の町と津藩のあゆみ」という演題で、城下町として発展する以前は、安濃津の湊町として殷賑を極めた津の町の移り変わりを配付資料の古文書・古絵図を解説しながら語っていただきました。豊富な知識と古文献調査の実務経験に基づくお話は興味の尽きることがなく、アンケートでも続編を希望する声が多く聞かれました。

1台あたり約4万円でパソコン教室をレベルアップ

教育学部では、専門2号館のWindows系パソコン教室(端末数41台)が情報教育の約20の授業に利用されています。この度、1台あたり約4万円という安価で新たな部品を購入し、本体を最新式のパソコンのレベル(Celeron1.7GHz, 256MBメモリなど)にまでグレードアップしました。指導にあたった山守一徳助教授によると、組み立て作業を担当した情報教育課程の約20名の学生は、自らの手で貴重な体験ができ大きな満足感を得た様子であるとのこと。ソフトウェアは、MSアカデミックオープンライセンスを利用してWindowsXPにアップデートされ、その他にOpenOfficeなど47種類のフリーソフトウェアもインストールされています。将来も時代に合わせて（最小限の予算で）再度高性能化を図ることも考えているとのこと。

お知らせ

知の支援センターから

平成14年7月から知の支援センターは、アスト津3階(津市羽所町700)に「三重大学知の支援センター」を開設しています。同センターは、地域にひらかれた大学をめざして、地域住民の皆様にも三重大学の様々な活動をより広く知っていただくために設置したインフォメーションセンターです。現在、同センターには1ヶ月に約20件の問い合わせがありますが、今後さらに利用が増えるよう、パンフレットを作成しました。県内の各市町村教育関係機関に配布し、PRに活用する予定です。

広報・ネットワーク運営室から

三重大学ホームページが改訂されました。是非一度ご覧下さい。

これに伴い、以下の広報誌がホームページでご覧になれるようになりました。

- 1.「ウェーブ三重大」(年3回発行、創刊号～第28号) (<http://www.mie-u.ac.jp/home/wave/index.html>)。
- 2.「フラッシュニュース三重大」(毎月末発行、創刊号～) (<http://www.mie-u.ac.jp/home/flash/index.html>)。

お詫びと訂正

前号(2号)のお知らせ欄の「平成15年度国際交流基金・国際交流事業に関する経費の決定」に「21世紀の大学における教育研究環境の質的整備とあり方」が採択事業として含まれておりましたが、当方の記載ミスでした。関係者の方々には、大変ご迷惑をお掛け致しました。この場をかりて、謹んでお詫び申し上げます。

投稿のお願い

各種事項、法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光 (hatanaka@arch.mie-u.ac.jp) または、井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。

場合によっては、取材に出向きます。